

# 日本地衣学会

# ニュースレター

## No.138

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次 会員通信 .....	513
三重県赤目溪谷地衣類観察会／葛山 博次 .....	513
このハナゴケ属は何か判りますか？／原田 浩 .....	515

### 会員通信 *From Members*

#### 三重県赤目溪谷地衣類観察会

*Report of Field Meeting on Lichens at Akame Gorge, Nabari-shi, Mie-ken / by KATSURAYAMA Hiroshi*

>>>>>> 葛山 博次：三重県いなべ市

好天に恵まれた 2016 年 4 月 6 日, 3 回目となる赤目溪谷での地衣類観察会が開催されました。

赤目溪谷は, 1925 年 (大正 14 年) に国の名勝地として指定され赤目五瀑を中心に 48 滝を持つ「名瀑」の地として, 世に広く知られるようになりました。あわせて高さ 40 m の柱状節理の露岩をもつ屏風岩の岸壁は実に見事です。近鉄赤目口駅から約 1 km ほど上流の室生山地の入口, 風呂屋橋付近からはじまり, 上流の岩石は, 約 1500 万年前の室生火山の際の火砕流堆積物である室生火山岩の溶結凝灰岩となり, 岩石は垂直方向に伸びる柱状の節理が著しく発達し, これに板状の節理が加わっています。谷壁は節理面に沿って岩塊が崩落し垂直な断崖をつくり, 谷底部には平らな節理面を残した長柱状や方形の巨礫の転石となっています。こうした地形から溪谷では滝と淵と早瀬が連続し, 壁面には柱状の割れ目を持つ露岩や岩柱

が見られ, それぞれが個性的な姿をしているのがこの溪谷の特色です。

#### 観察会の記録

溪谷の入り口 (オオサンショウウオセンター付近) に集合した参加者は総勢 11 名, 挨拶・自己紹介のあと山本好和先生から「地衣類の特徴と観察の方法について」付近のサツキに着生するウメノキゴケ, マツゲゴケ, 石垣上に生育するトゲカワホリゴケ, アナイボゴケの仲間 (?), ツブダイダイゴケ, 屋根の上に生えるコアカミゴケなどの仲間を教材に, わかりやすく, 興味深くお話をいただき, 明るく, 元気に溪谷に入りました。壁面には紫紅色のトサノミツバツツジ, シデ類の花序の可憐な姿, コケの中で葉を上げたシロバナショウジョウバカマなどが出迎えてくれました。

第 3 回目となる今回の観察は, 特に痂状地衣にも



図1. 山本好和先生の指導による地衣類の観察。

注目しようということになりました。早速、山本先生から、この木肌をみて下さいとのことで、ルーペを通して眺めてみると虫ピンの頭のような小さな子器をつけた黄緑色の痂状地衣、又カホソピンゴケを観察、ふだんはこうした痂状地衣にはあまり気をとめることはないが、指導をいただいたおかげで気づきこの地衣の生きざまに感動しました。溪谷ぞいのヤブツバキやサカキなどの常緑樹の生葉上に着生する生葉上地衣類は、苔類のヨウジョウゴケにも似た状態であるように感じました。岩壁には、イワニクイボゴケが目立ち、灰白色から淡桃色の痂状で、大きさも直径10 cm をこえるものがあり、直径2 mm ほどの皿状の子器をつけた個体も多く生育しています。岩肌に若草色の布を張りつけたように広がりその中に短い柄があり黄からピンクの円盤状の子器をつけたヒメセンニンゴケは鮮やかで人目を引きつける魅力のある地衣類の一つです。溪谷ぞいのケヤキの大木にはマルゴケ類(?) やサネゴケ類などの痂状地衣が着生しています。うっかりしていると見過ごしてしまうところでした。赤目五瀑の1つ不動滝付近の岩壁には灰緑色から暗緑色の痂状で子器はレキデア型黒褐色円形のハコネイボゴケ、灰白色から淡青緑色の痂状で子器はレキデア型で円形皿状のヘリトリゴケ、灰白色の痂状で黒い子器をつけるアナイボゴケ類(?) が生えています。赤目五瀑の2つ目、千手滝手前の八畳岩付近では葉状地衣のウチキウメノキゴケや環境省の絶滅

危惧種の情報不足(DO)に指定されているチチレバカワラゴケの生育を山本先生からご教示いただき、改めて全員で確認をしました。鉛灰色の葉状地衣で、大きさは5 cm 程度のひろがりを見せています。赤目五瀑の3つ目布曳滝付近の柱状節理の岩壁にはリトマスゴケ科のヒョウモンメダイゴケが生え、オレンジ色の痂状地衣で円形に盛り上がった白色の子器をつけています。本種は環境省の準絶滅危惧種(NT)に指定されている希少種であると教えていただきました。縫藤滝をすぎて間もなく溪流沿いの山道に赤目で1株だけ残存するといわれているサワグルミの大木の生育地にたどりつき、昼食・休憩に入りました。爽やかな風が吹き抜ける溪側での楽しいひとときとなりました。

参加のみなさんで記念の写真を撮りました。昼食後、百畳岩をすぎてしばらく進んだ山側の岩上にハナビラゴケ科マットゴケが生育するのを観賞しました。灰青色の鱗片状地衣で赤目渓谷では今回初めて確認された種類です。この付近の岩壁には樹状地衣のオオキゴケが生育、緑藻とラン藻の共生藻といわれています。同様に緑藻とラン藻を共生藻とする葉状地衣のエピラゴケも生育しています。生育の本拠が冷温帯というチチレカプトゴケモドキ、黒褐色の葉状地衣で背面や腹面に網目模様がみられます。同じ岩上に褐色をした葉状地衣のウラムゴケ属が生育、地衣体の裏に子器をつけているのが特徴で、和名もその形状から名づけられたようです。斧滝(こうがいだき)の上部にでて溪流の岩石上を探していたところ浅瀬に生育するカワイワタケの生育を確認、干し上がった岩上では褐色の葉状を、水中では緑色の葉状を観察、大きさは3~4 cm ほどの大きさでした。前回に観察したなつかしい地衣です。同じような環境に生える痂状地衣のアナイボゴケの仲間(?) も生育しています。さらに溪流沿いに進むと大きな岩に痂状地衣で鮮やかな色彩のダイダイサラゴケが見られました。名の通り緑の地にオ

レンジ色の子器をつけています。直径 1 mm ほどの円形皿状であるようすに感激しました。雨降滝付近にて小休止。今回の観察会はここまでということにして下山することになりました。

山本先生からは地衣類の形態や生態、人びとのかかわりなどいろいろなお話を伺いながらの楽しく有意義な一日でありましたことに感謝申し上げます。尚、当日の参加者は山本好和先生のほか次のみなさんです。(敬称略)加納康嗣, 小川毅郎, 岡田純二, 寺田史子, 萬野日出人, 石原峻, 細川健太郎, 鈴木義忠, 鈴木正子, 葛山博次。



図 2. 地衣類観察会参加者。(撮影 細川健太郎)

## このハナゴケ属は何か判りますか？

*What is this Cladonia? / by HARADA Hiroshi*

>>>>>> 原田 浩：千葉県立中央博物館

図 1 に示したハナゴケ属を同定できますか？

場所は千葉県市原市、市原クオードの森(旧 市原市民の森)です。標高は約 70m ですから暖温帯です。

開けたキャンプ場の区域を流れる狭く緩やかな小川に沿って岩石が置かれているのですが、その上に生育していました。

よく見てみましょう。褐色の子器があり、鱗葉があります。子柄の先端には小さな盃も幾つか見えます。盃の底は閉じています(穴が開いていない)。ですから、閉鎖褐実群である

ことが判りますね。

さて、このような姿の種をこれまで見た記憶が無く、文献を見ても解決せず、長い間疑問のままでした。(写



図 1



図 2

真は昨年撮影したのですが、疑問はずっと前からありました。)

ところが、昨年 12 月 10 日に、この地で観察会を実施したとき、この岩と付近の岩をじっくり見る機会があり、新たな発見がありました。問題のハナゴケ属の近くには、図 2 に示すようなハナゴケ属もたくさん生えていたのです。これはそれほど子柄が分枝していないし、子柄表面に粉芽塊があります。私のよく知っている、千葉県ではよく見られる、あの種です。図 1 をよく見ると、右下のほうに、図 2 と同様な子柄も見られるではありませんか。更に観察すると、両者の中間形もあって、形態が完全に連続します。どうや

ら同一種です。

それを確かめるために、持ち帰った標本に呈色反応を試しました。予想通り、P+濃黄色でした。

さあ、皆さん、判りましたか?..... *Cladonia fruticulosa* Kremp. タイワンレンゲゴケですね。保育社の図鑑 p.152 では、*Cladonia subpityrea* Sandst.となっています。閉鎖褐実群のほとんどの種がフマルプロトセトラール酸を含み P+橙赤色なので、本種を見分けるには P 反応は有効です。

身近な場所であっても、地衣類に関する疑問は尽きません。

### ●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 102 号 378 ページに。

### ●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 102, p. 378 of this publication.

● *Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 138, pp. 513-516; eds. Nakashima H., Bando M., Kawakami H. & Harada H., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 2 Nov. 2016.

---

日本地衣学会ニュースレター 138号

発行日：2016年 11月 2日

編集：中島裕之・坂東誠・川上寛子・原田浩

発行者・発行所：日本地衣学会

〒658-8558神戸市東灘区本山北町4-19-1

神戸薬科大学 薬化学研究室

---

©2016日本地衣学会 (© 2016 The Japanese Society for Lichenology)  
本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。